

# 農林水産省農村振興局長賞

いしぶ  
石部棚田保全推進委員会(静岡県松崎町)

子供に夢を 老人に生きがいを



松崎町は、伊豆半島西南部に位置し、三方を天城山稜に囲まれ、西に駿河湾を望む自然豊かな町で、町の中心部から5キロほど南下した石部地区には、枚数で1,000枚、面積10haと静岡県内でも1, 2の規模をもつ棚田がありますが、高齢化や過疎化等により耕作放棄が進み、荒れ放題となっていました。こうし

た中、棚田が平成11年に静岡県の「棚田等十選」に選定されたことを機に、この棚田を守っていこうと、平成12年に「棚田保全推進委員会」が発足し、棚田の保全奉仕活動などを行っている「しずおか棚田くらぶ」との合同による棚田保全活動が始まりました。草刈や石垣の補修などの復田活動が進み、同年5月に



棚田と海の風景が美しい

は田植えも実施され、十数年ぶりに水を張った棚田がよみがえりました。

「子供も老人も石部の人も都会の人も、みんな笑顔で」という願いを込めて「石部赤根田村百笑(ひやくしょう)の里」と名付けられたこの棚田は、住民にとっても貴重な地域資源として見直され、保全活動に対する理解と積極的な協力が得られるようになりました。

ふるさと・水と土ふれあい事業で道路や水車小屋、交流棟の整備も行われ、平成14年度からは、県内で初めての「棚田オーナー制」も導入されて都市住民との交流も活発に行われているほか、地元民宿等の観光関係者や各種団体と連携した組織体制も整い、棚田保全の気運がより高まっています。

また、棚田で収穫された黒米や赤米を使った特産品開発も進み、これまでに焼酎、うどん、パン、アイスなどが製造販売されているほか、富士山と駿河湾を望む棚田の美しい景観を活かしたスケッチや写真のツアーなどの観光商品開発にも取り組んでいます。

棚田を使ったイベントなども数多く展開され「早春フラワーウォーキング」(4月)、「田植え祭」(5月)、「ホタルウォッチング」(6月)、「石部大地引綱まつり」(7月)、「全国案山子コンテスト」と「収穫祭」(10月)、



棚田オーナーによる稲の刈り取り

「棚田特産品販売」が開催されています。

優れた農村景観と文化的価値を持つ棚田を、将来に残すべき貴重な地域資源としてとらえ進めてきた保全活動は、棚田を単なる生産の場としてだけではなく、グリーンツーリズム、エコツーリズムの拠点として、地域の振興に大きな効果をあげています。

また、現在では「一社一村しずおか運動」にも積極的に取り組み、大学・企業等との協働により、地域を超えた連携・支援の輪が広がってきています。

石部地区では、半農・半漁・半観光と、さまざまなかわりのなかで生活が営まれています。棚田保全を通じ、異業種の相互理解のもとに一次から三次産業が潤える地域づくりを目指しています。

#### ■ 講評

棚田の上から見下ろす農地と海は絶景です。一度放棄された田を復元し、地域住民の積極的な協力を得て、都市から人を呼ぶまでになりました。その過程での「しずおか棚田クラブ」や地域の大学との連携や行政の支援も重要な要素でした。多くの支援を受けつつ美しい景観を取り戻し、地域の活性化へつなげていることが評価されました。



棚田オーナーとの交流